

# 1 級 損 害 保 険 登 録 鑑 定 人

簿記会計

試験問題用紙

(2017年1月)

## 注 意 事 項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないで下さい。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認して下さい。解答用紙がない場合は直ちに申し出て下さい。
3. 解答用紙には 受験地、受験番号、氏名 を必ず記入して下さい。また、受験番号は正確に記入して下さい。間違った受験番号を記入すると採点できないことがあります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出して下さい（問題用紙は持ち帰って結構です）。
5. 解答は楷書で記入して下さい。
6. 試験時間は正味50分です。
7. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
8. 試験時間中の私語は禁止します。
9. 資料等の使用は認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまって下さい。
10. 試験時間中は、携帯電話等の通信機能を有する機器の使用はいっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいて下さい。
11. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いて下さい。
12. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出て下さい。

一般社団法人 日本損害保険協会

## 【問題 1】

次の1～5の取引の仕訳を解答用紙に記入して下さい。

なお、勘定科目は下記の勘定科目表から最も適当なものを選んで下さい。

- かねて、A商店に委託販売のため送付していた商品（仕入原価 500,000 円 発送諸掛 10,000 円）について、同店から売上計算書とともに手取金 700,000 円を小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 下記の財政状態にあるB商事株式会社を 13,000,000 円で取得し、取得対価は小切手を振り出して支払った。なお、B商事株式会社の資産と負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

B商事(株)		貸借対照表	
商 品	7,000,000	支 払 手 形	1,000,000
備 品	3,000,000	借 入 金	3,000,000
土 地	5,000,000	資 本 金	11,000,000
	<u>15,000,000</u>		<u>15,000,000</u>

- 火災によって焼失した建物に対する保険金 10,000,000 円の支払いを保険会社に請求していたところ、本日、請求どおりの保険金を支払う旨の通知があった。なお、保険会社とは保険金 10,000,000 円の火災保険契約を結んでいる。
- 満期保有目的で発行時に買い入れた次の社債について、決算にあたり償却原価法によって評価した。また、半年分の利息を現金で受け取った。  
社債額面 4,000,000 円 取得原価 額面 100 円につき 98.80 円  
償還期限 6 年 利 率 年 1.5%  
利払い 年 2 回
- C工業株式会社は、発行後6年目の初頭に額面総額 50,000,000 円の社債のうち 20,000,000 円を抽せんによって償還することを決定した。なお、抽せんする社債に対する償却原価法の適用は、決算時に計画的に行っている。

《勘定科目表》

現 金	当 座 預 金	売 掛 金
未 収 金	繰 越 商 品	積 送 品
建 物	備 品	土 地
満期保有目的債券	の れ ん	支 払 手 形
買 掛 金	借 入 金	未 払 社 債
社 債	資 本 金	売 上
受 取 利 息	有 価 証 券 利 息	仕 入
支 払 利 息	火 災 損 失	火 災 未 決 算

## 【問題2】

K S 製作所では、個別原価計算を採用し、D 製品（製造指図書 # 1）と E 製品（製造指図書 # 2）を製造している。下記の＜資料＞と製造勘定によって、次の 1～5 の金額を求めて解答用紙に記入して下さい。ただし、D 製品は前月に製造を開始し、前月中に原価計算表に集計された原価は 310,000 円であった。なお、当月末にはすべて完成している。また、E 製品は当月に製造を開始し、月末時点では完成していない。

1. 製造勘定のアの金額
2. 製造勘定のイの金額
3. 製造勘定のウの金額
4. 製造勘定のエの金額
5. D 製品（製造指図書 # 1）の製品単価

## ＜資料＞

## ① 当月の製造直接費

材料費	製造指図書 # 1	50,000 円	製造指図書 # 2	<input type="text"/> 円
労務費	製造指図書 # 1	400,000 円	製造指図書 # 2	200,000 円
経費	製造指図書 # 1	40,000 円	製造指図書 # 2	10,000 円

- ② 製造間接費は直接労務費法によって各製品に配賦する。
- ③ D 製品（製造指図書 # 1）の完成数量は 30 個であった。

製		造	
前月繰越	310,000	製 品	( ウ )
材 料	500,000	次 月 繰 越	( エ )
労 務 費	( ア )		
経 費	( イ )		
製造間接費	240,000		
	( )		( )

## 【問題3】

次の元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項に基づき、損益計算書と貸借対照表を作成し、空欄の1～15に当てはまる金額または項目名を解答用紙に記入して下さい。ただし、決算日は平成29年3月31日とします。

## 〈元帳勘定残高〉 単位：千円

現金	1,260	当座預金	2,280	受取手形	1,700
売掛金	3,600	貸倒引当金	170	売買目的有価証券	1,800
繰越商品	1,400	仮払金	6,000	仮払法人税等	1,000
備品	4,000	減価償却累計額	1,600	関連会社株式	3,000
子会社株式	4,000	支払手形	1,800	買掛金	3,300
借入金	5,500	退職給付引当金	3,000	資本金	8,000
資本準備金	400	利益準備金	200	繰越利益剰余金	700
売上	96,000	受取手数料	110	仕入	80,000
給料	9,000	広告料	400	支払家賃	800
保険料	400	雑費	100	支払利息	40

## 〈付記事項〉

- ① 売掛金のうち100千円は、前期にF商店への販売によるものであり、同店は当期に倒産した。よって、貸し倒れとして処理する。
- ② 仮払金6,000千円は、建設中の倉庫に対する建築代金の一部である。なお、この建物は決算日現在完成していない。
- ③ 借入金のうち、500千円の返済予定日は平成30年1月31日であり、5,000千円の返済予定日は平成32年1月31日である。

## 〈決算整理事項〉

1. 期末商品棚卸高 帳簿棚卸数量75個 原価20千円  
実地棚卸数量70個 正味売却価額16千円
2. 貸倒引当金 受取手形と売掛金の期末残高に対して、それぞれ2%見積もる。
3. 売買目的有価証券の評価 売買目的有価証券は、すべてG社株式である。  
G社株式 40株 1株の時価 40千円
4. 備品の減価償却 取得原価4,000千円 残存価額は零(0) 耐用年数は5年  
定額法によって減価償却費を計算する。
5. 保険料の前払高 保険料のうち300千円は平成28年10月1日に向こう1年分  
を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
6. 利息の未払高 利息は毎年5月末と11月末に経過した6か月分を支払うこと  
になっている。
7. 退職給付引当金当期計上額 100千円
8. 法人税・住民税及び事業税額 2,000千円

## 損益計算書

自平成28年4月1日至平成29年3月31日 (単位:千円)

I 売上高	( )	
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	( )	
2 ( )	( )	
合計	( )	
3 ( )	( )	
4 ( )	( )	
5 ( )	( )	( )
売上総利益		( 1 )
III 販売費及び一般管理費		
1 給料	( )	
2 広告料	( )	
3 ( )	( )	
4 ( )	( )	
5 貸倒引当金繰入	( 2 )	
6 ( )	( )	
7 減価償却費	( )	
8 ( )	( )	( )
( )		( 3 )
IV 営業外収益		
1 ( )	( )	( )
V 営業外費用		
1 支払利息	( 4 )	
2 ( )	( 5 )	( )
税引前当期純利益		( )
法人税等		( )
当期純利益		( 6 )

## 貸借対照表

平成29年3月31日

(単位:千円)

資産の部		負債及び純資産の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	( 7 )	支払手形	( )
受取手形	( )	買掛金	( )
貸倒引当金	( ) ( )	( )	500
売掛金	( )	( )	( 12 )
貸倒引当金	( ) ( 8 )	( 13 )	20
( )	1,600	II 固定負債	
商品	( )	( )	5,000
( )	( 9 )	( )	( 14 )
II 固定資産		負債合計	( )
備品	( )	I 資本金	( )
減価償却累計額	( ) ( 10 )	II 資本剰余金	
関係会社株式	( )	( ) ( )	( )
( 11 )	( )	III 利益剰余金	
		( ) ( )	
		( ) ( 15 )	( )
		純資産合計	( )
資産合計	( )	負債及び純資産合計	( )

<MEMO>

<MEMO>